

吉野歴史資料館からのお知らせ  
吉野歴史資料館のイベントご案内、実施した事業の報告などを紹介します

講演会の案内（令和5年度）

●特別列強連演会（2本の講演を同時開催）  
日時：令和5年7月23日 13時00分～15時30分  
会場：吉野町中央公民館・大ホール1  
内容：徳川家康、牧野富太郎、吉野について  
講師：町職員 定員：50名 参加費：500円  
申込：〒634 往復はがき、電子メールで、吉野町産業観光課まで参加希望者の住所、氏名、連絡先をお知らせください。

令和4年度 職場体験報告

令和4年度も吉野さくら園吉野中学校より、3人の生徒さんが職場体験に3日間、来てくれました。彼らの感想文を少しご紹介します。  
「さくら園職場体験で、一番楽しかったこと、勉強にならなかったのは、一日目の縄文や弥生時代についての話です。一日目、久びに来たときは、あまりきん張して、なんとも楽しめなかったが、担当者に会ったときに、プレッシャーがおそって話せてよかったです。しかし、まだ本番ではないので、僕は分かっていた。あいさつからは、資料館の中についての説明を聞きました。そんな中、縄文時代や弥生時代の話に入りました。それでは、わかんなかったことや知らなかったこと、さくら園のことができました。①虫は、一日目で、歴史をもっと知りたくなりました。また、いくつかここに書きたいと思いました。  
「さくら」：一日目、たくさん教えてもらいました。資料館の倉庫の中はとて暑かったです。



たきつみやとろ 第10号 令和5年6月30日発行

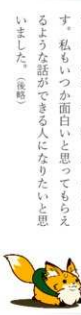
資料館HPでも情報発信中！  
http://www.town.yoshino.nara.jp/about/saisyusudenou/rekishishiryodan.html

たきつみやとろ 第10号



国橋・新橋から高見川上流を望む

古文書調査をすすめている本善寺のこと、ご存じですか。 — 「本願寺蓮如と本善寺の創建」



吉野が紹介されました（令和4年度報告）  
左記の刊行物に写真提供や協力等しました。  
・「S・東海」『そらみよ』と『いざよい吉野等』  
・「R・TBS」関口宏の『一番いい古史』P.11  
・奈良テレビ放送『ゆうトク』11月  
・毎日新聞『なんのふたか』12月10号（夕刊）  
・毎日新聞、おつかい関西よつとら誌  
・毎日新聞、朝刊記念特集  
・小学館『学習まんが日本の歴史』  
・雑誌『月刊大和路』4・7月号  
・雑誌『中国旅行』KXRD1  
・ムック本『関西の神社と寺』  
・NPO法人『関西の神社と寺』  
・『NPO法人』『関西の神社と寺』  
・『広報』『広報』の『生誕100周年報』12月号  
・奈良県『紀伊万葉プロジェクト』関係者  
・『歴史芸術文化財』奈良県指定の文化財展  
・大津市歴史博物館『大友皇子と大和の乱展』  
・関ヶ原町『壬申の乱1350年記念企画展』  
・伊豆の国市『坂東武者ゆかりの地マップ』  
左記の講演会、案内で館職員講師を務めました。  
・『な記』講演会『プロジェクト』首脳会議（6月）  
・吉野町観光プロジェクト『アガイドの会研修』7月  
・吉野市観光光栄ランド『アガイドの会研修』8月  
・野井市観光光栄ランド『アガイドの会研修』8月  
・県内高校社科教員、地理教育研修会（8月）  
・『県内高校社科教員、地理教育研修会』9月  
・奈良県『文芸協協議会』大友皇子と大和の乱展  
・平城宮跡『いざよい』元正天皇関係講座（9月）  
・大津市歴史博物館『れきし』講座（10月）  
・『いざよい吉野』吉野の魅力体験イベント（11月）  
・吉野古道センター『吉野町講演会』（2月）  
※R4年度は多くの機関等で吉野を紹介しました。

【Hさん】熊鷹 職場体験で一番印象に残ったことは、取組を見物したと古文書の調査を書いたことです。取組庫には見たことがない、いざよいと本棚につまった本や展示がいろいろ、いざよいのなどがたくさんあってすごいなと思いました。古文書の調査には、虫は、今はもう使っていない。調査字があったら古いものなんだと思いました。  
この三日間で体験したことを資料館で働いている人たちは普段からやっていたらと思うすごいなと思います。それはワークショップの話す側を体験したときに、どうしたらわかるか、どうしたら面白くも思ってもらえるか考えながら話すというのがとて難しかったからですが、私もいつか面白くも思ってもらえるような話ができる人になりたいと思いました。（熊鷹）



二〇二二年の文化財ニュース

二〇二二年は吉野町の文化財にとって、大きなニュースが3つもありました。  
一つ目は、吉野神宮が重要文化財に指定されたこと。奈良県内では、近代神社建築で重要文化財になった第一号です。  
二つ目は、北岡本店の酒蔵（東棟・西棟）が国登録文化財になったこと。昭和初期の鉄筋コンクリート造酒蔵として、価値が評価されました。  
最後は、壬申の乱一三〇〇年として宮内省が大きく紹介されたこと。ポスターがつくられ、東京、大阪などで掲示されました。

二〇二三年は何のメモリアル？

二〇二三年も吉野にとってのメモリアルイヤーは続きます。メモリアルイヤーとなるのは、元正天皇吉野行幸一三〇〇年、司馬遼太郎生誕100周年です。また、連続テレビ小説『らんまん』、大河ドラマ『どうする家康』の主人公も吉野に縁があります。ちなみに、1来年になると世界遺産二〇周年、聖武天皇の吉野行幸一三〇〇年などがメモリアルになります。こうした情報も、資料館では随時発信していく予定です。

講演会の再開とアンケート

令和4年度は久方ぶりに、講演会を開催しました。内容は「壬申の乱」が4回、「古文書調査報告」が1回です。町内の方やケーブルテレビなどでもご覧頂けたのではないのでしょうか。町外の方は資料館のYouTubeチャンネルでも一部ご覧頂けます。

令和4年度の講演会では、参加者の皆様にアンケートをお願いしました。結果、いざよいの回も、ほとんどの方がお楽しみ頂けた様子で、ありがたいと思っております。また、今後、講演会で聞いてみたい内容を伺いますと、時代別では「飛鳥・奈良時代」「南北朝時代」の回答が多く、ジャンル別では「吉野の歌」「吉野の文学」「能や歌舞伎」などの回答を多くいただきました。今後の講演会に際し、参考にしたいと思います。

令和5年度 特別陳列のご案内

二〇二三年上半期は特別陳列「元正天皇『天皇吉野行幸譚』」と「緑が結んだ縁」牧野富太郎・徳川家康と吉野」を開催中です。下半期の司馬遼太郎と吉野の繋がりを紹介します。ご期待ください。

